

東京大学教養学部「学生の希望によって開設される全学自由研究ゼミナール」
「未来シナリオとリーダーシップ」
(履修のためのガイダンス Version 1.0.)

2020年8月
原田 武夫

1. はじめに

このゼミは「学生の希望によって開設される全学自由研究ゼミナール」として学部当局からの承認を得て開催するものです。履修後、合否判定による単位認定が行われます。

このゼミにおける目的は参加学生の皆さんが情報リテラシー (information literacy) を完全に体得することです。情報化・デジタル化が高度に進み、同時に不安定性がますます増す現代社会とこれからにおいて、皆さんが目標設定とその達成を出来るのみならず、我が国、さらにはグローバル社会全体に対してリーダーシップを発揮する有意な人財となることを通じ、この難局を乗り切っていくことに貢献するようになることを目標としています。この目標の達成に必須なのが上記の目的の達成に他なりません。

そうした観点からこのゼミでは常に「既存の枠組みの外側」を直視し、それについて自由闊達に議論をして行きます。このゼミにおける主役はあくまでも参加学生の皆さん一人一人です。講師である私からの一方通行のインプットではなく、双方向といったレベルを越えて、教室の中でぐるぐると議論が周るような、そんな「知の現場」を創り出して行きます。皆さんの積極的な参加を心から期待しています。

2. Ground Rules

このゼミはいくつかのルールを設定し、それを共通了解として授業を展開して行きます。必ず一読の上、順守してください。

(1) 連絡用ソーシャル・メディア等への登録

学部当局指定の連絡ツール以外にソーシャル・メディアのグループへの登録をあくまでも講義支援のための連絡ツールとして指示する場合があります。別途ガイダンスを出しますのでそちらを参照し、その場合には登録して下さい。

(2) ゼミ長 (1名) とサブ・ゼミ長 (2名程度) の選任

双方向の授業展開を可能にし、かつ (公認ゼミ/自治会公認「自治ゼミ」の形態を問わず) 両セメスター連続 (通年) での開催を通じた有意義な授業を実現するため、リーダーシップを発揮してくれるゼミ長及びサブ・ゼ

ミ長を選任します。第3回目の授業の際に決めたいと思いますので「我こそは」と思う学生の皆さんは心を決めておいて下さい。

またこのゼミは原則として「半年」でも意味ある内容を学べる様にしていますが、より深い理解を促すべく「通年」での実施も可能である様にシラバスを組み立てています。受講学生の諸君もそのことを前提に臨んで下さい。

(2) 作業グループへの所属

第2回目の授業でガイダンスはおおよそ終わりますので、第3回目の授業の中で受講学生の皆さんによる作業グループを編成します。出席人数にもよりますが、おおむね3~8名程度で編成します。作業グループは毎回出題されるワークをこなすための仲間たちの集まりです。セメスターを通じて基本的にはメンバーを入れ替えませんので、そのつもりで団結してもらえればと思います。

(3) 授業中の「議論」における基本的な態度

大学は「自由に意見・見解を表明出来る場」です。したがって以下の態度で他者の述べる論には臨んで下さい。

- ・ Be here now.
- ・ Silence or absence is agreement.
- ・ Consensus is “I can live with it.”
- ・ Make your thinking visible.

→相手に分かってもらうにはどうすれば良いか、これに集中して発言をしてみてください。他者に対して「影響力」を与えるにはどうすれば良いのかを常に考え抜き、発言・行動して下さい。

3. シラバス (各回概要及び指定参考文献)

(※各講義は毎週木曜日の16:50~18:35にリアルタイムで実施します。)

●第1講 (2021年4月8日(木))「イントロダクション(その1)」

→今、我が国と世界で何が本当に起きているのかを解説します。

【参考文献】特に無し

●第2講 (2021年4月15日(木))「イントロダクション(その2)」

→第1講で述べた情勢認識を前提にこれから何が必要なのかを論じます。

【参考文献】特に無し

●第3講 (2021年4月22日(木))「今、私たちはどこに立っているのか(その1)」

→我が国社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。

【参考文献】

- ・藤井義彦『巨大企業危機』（さくら舎）

●第4講（2021年5月6日（木））「今、私たちはどこに立っているのか（その2）」

→グローバル社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。

【参考文献】

- ・リサ・ランドール『ワープする宇宙』（NHK出版）

●第5講（2021年5月13日（木））「今、私たちはどこに立っているのか（その3）」

→上記2講の考察を前提に国連とその向こう側に広がる未来を考えます。

【参考文献】

- ・岩間浩『ユネスコ創設の源流を訪ねて』（学苑社）

●第6講（2021年5月20日（木））「情報リテラシーとその周辺」

→今求められているスキルとしての「情報リテラシー」の俯瞰図を論じます。

【参考文献】

- ・原田武夫『世界のエリートはなぜ、この「フレームワーク」を使うのか』（かんき出版）

●第7講（2021年5月27日（木））「本当の過去を知る・我が国（その1）」

→知るべき過去として我が国の古代を巡る論を振り返ります。

【参考文献】

- ・河内春人『倭の五王』（中公新書）

●第8講（2021年6月10日（木））「本当の過去を知る・我が国（その2）」

→知るべき過去として我が国の中世・近世を巡る論を振り返ります。

【参考文献】

- ・今谷明『室町の王権』（中公新書）

●第9講（2021年6月17日（木））「本当の過去を知る・我が国（その3）」

→知るべき過去として我が国の近現代を巡る論を振り返ります。

【参考文献】

- ・原田武夫『「日本封じ込め」の時代』（PHP新書）

- 第10講(2021年6月24日(木))「本当の過去を知る・米欧総論(その1)」
→知るべき過去として「グノーシス主義」について論じます。

【参考文献】

- ・大貫隆『グノーシス 陰の精神史』(岩波書店)

- 第11講(2021年7月1日(木))「本当の過去を知る・米欧総論(その2)」
→知るべき過去として井筒俊彦の所論を振り返ります。

【参考文献】

- ・井筒俊彦『意識と本質』(岩波文庫)

- 第12講(2021年7月8日(木))「本当の過去を知る・米欧総論(その3)」
→知るべき過去としてイラン問題の本質から見える米欧について論じます。

【参考文献】

- ・高橋和夫『イランとアメリカ』(朝日新書)

- 第13講(2021年7月15日(木))「シンクロニシティと未来シナリオ」
→シンクロニシティと未来シナリオの在り方について議論します。

【参考文献】

- ・ジャウオスキー『シンクロニシティ』(英治出版)

.....

(※以下はA Semesterで開催する場合(形態を問わない)のシラバス案です)

- 第14講「夏学期の振り返りと新規登録学生のためのイントロダクション」
→2021年度夏学期で学んだことをあらためて振り返り、秋学期を展望します。

【参考文献】

- ・特に指定しません。

- 第15講「本当の過去を知る・米欧各論(その1)」
→米欧勢を語る際に避けて通れない「ユダヤ的なるもの」について考えます。

【参考文献】

- ・Stephen Birmingham, "The Grandees: America's Sephardic Elite"

- 第16講「本当の過去を知る・米欧各論(その2)」
→我が国とロシアとの関係について考えます。

【参考文献】

- ・ 島田謹二『ロシアにおける広瀬武夫』朝日選書

● 第 17 講「本当の過去を知る・米欧各論（その 3）」

→我が国と米国との関係について考えます。

【参考文献】

- ・ ションバーガー『ジャパニーズ・コネクション—海運王 K・スガハラ外伝』
文藝春秋

● 第 18 講「リーダーシップとイノベーション（その 1）」

→リーダーシップとは何か、その基礎について学びます。

【参考文献】

- ・ 野田智義他『リーダーシップの旅 見えないものを見る』光文社新書

● 第 19 講「リーダーシップとイノベーション（その 2）」

→リーダーシップを前提としたイノベーションとは何かについて学びます。

【参考文献】

- ・ 村井啓一『創発（はぐれ）人材をさがせ—イノベーションを興す』
日本経済新聞出版

● 第 20 講「アントレプレナーシップとは何か」

→本当に求められるべきアントレプレナーシップについて考えます。

【参考文献】

- ・ 磯崎哲也『起業のファイナンス』日本実業之出版社

● 第 21 講「Make something happen を可能にするために（その 1）」

→他者に対して影響力を与えるということはどういうことなのかを学びます。

【参考文献】

- ・ チャルディーニ『影響力の武器[第三版]：なぜ、人は動かされるのか』
誠信書房

● 第 22 講「Make something happen を可能にするために（その 2）」

→我が国固有の政治構造の中でコトを起こすための手法を学びます。

【参考文献】

- ・ 三宅孝之他『3000 億円の事業を生み出す「ビジネスプロデュース」戦略 なぜ、
御社の新規事業は大きくなるのか?』PHP 出版

● **第 23 講「未来シナリオとインテリジェンス（その 1）」**

→インテリジェンスの世界について、その基礎を学びます。

【参考文献】

- ・ Mark Lowenthal “Intelligence: From Secrets to Policy”

● **第 24 講「未来シナリオとインテリジェンス（その 2）」**

→未来シナリオの作成を巡るグローバル規模での最前線について学びます。

【参考文献】

- ・ Peter Schwartz “The Art of the Long View: Planning for the Future in an Uncertain World”

● **第 25 講「私はこれから如何に生きるべきか」**

→受講学生自身のこれからの人生の設計図を未来シナリオに重ね、考えます。

(※参考文献は無しですが、第 24 講と第 25 講の間で講師との間でオンラインにて対話を各人行い、自分自身の人生に関する「未来シナリオ」を作ってみましょう)

● **第 26 講「各作業グループによる未来シナリオ発表」**

→各作業グループより修了試験に変えて未来シナリオを発表、講評します。

(※参考文献は無しですが、年末年始の休暇を用いてグループワークをオンラインで行い、グローバル社会全体から自分自身の人生をつなげた未来シナリオをつくってもらいます。)

.....

4. **このゼミに関する連絡先**

- ・ **講師（原田武夫）**

takeo.harada@haradatakeo.com

(了)